

# 中小企業景況情報

本情報は、県内12商工会で実施した中小企業景況調査の集計結果(180企業)をまとめた

## サービス業

発行・長崎県商工会連合会  
長崎市桜町4-1  
長崎商工会館8階  
問い合わせ先 TEL 095(824)5413

### 〔主要景況項目の動向〕

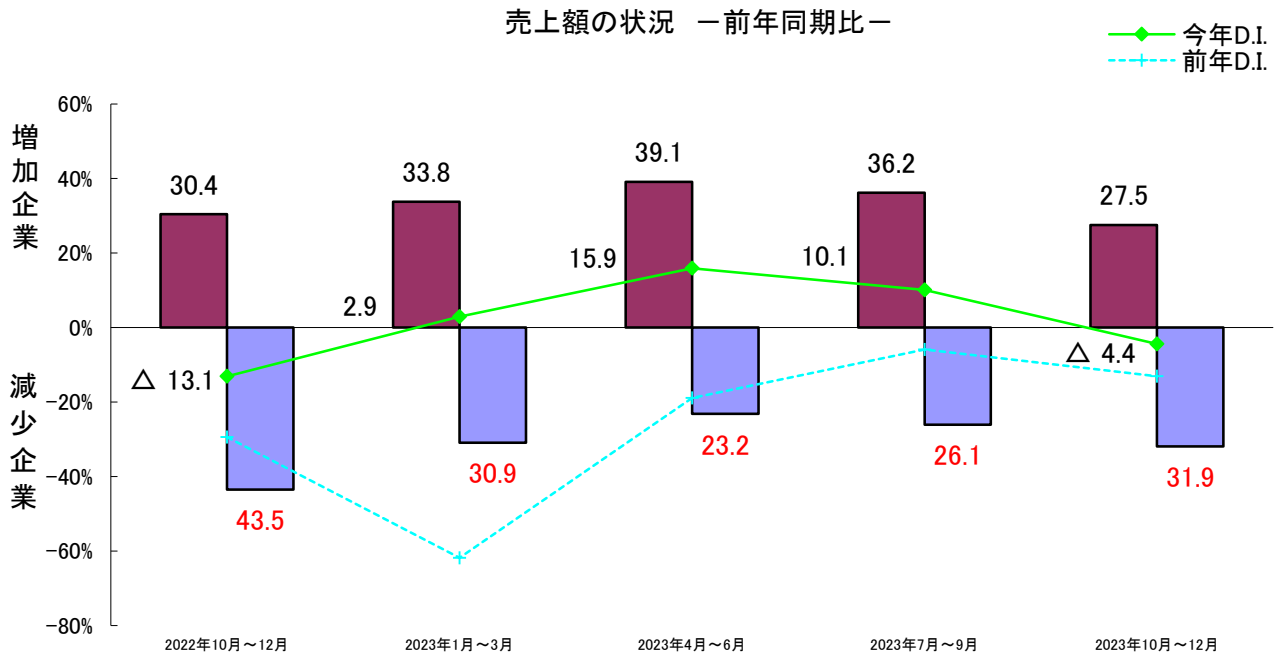
期 主要項目	2022年 10月～12月	2023年 1月～3月	4月～6月	7月～9月	2024年 10月～12月	2024年 1月～3月(見通し)
売上額						
採算						
資金繰り						
業況の動向						

晴 D・I 50.1～100   
 晴時々曇 D・I 20.1～50   
 曇 D・I 20～△20   
 曇時々雨 D・I △20.1～△50   
 雨 D・I △50.1～△100

### 〔調査対象企業のコメント〕

製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>円安による仕入単価の高騰に頭を悩ませている。【コンクリート製品製造業】</li> <li>受注数の低調が続いている。商品の値上げを行ったが、現在も材料の値上げが続いているため、思った利益が出にくい状況である。【その他のパン・菓子製造業】</li> <li>今期に大手食品会社との取引が決まり、年間通しての商品供給が可能となり、売上高の増加が期待できるが、現在、干物製品にする原材料不足が続いており、不安である。【めん類製造業】</li> <li>気候変動による漁獲量不足が原材料不足に繋がっている。【その他の水産食品製造業】</li> </ul>
建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元依存の体制では工事量のアップは望めない。積極的な県外への営業展開と同業他社との情報共有を推し進めて事業の継続を図っていく様な体制強化に努めたい。【熱絶縁工事業】</li> <li>店舗の内装工事と宿泊施設の改修を並行して工事する事になり、職人の確保が難しい時期だった。全体的に皆忙しく、人出不足が進んでいる。【一般土木建築工事業】</li> <li>インボイス制度が実施され、今まで単発で発注していた個人事業主でインボイス登録されていない個人事業主との関わり方が難しい。長年の付き合いがあり、簡単には関係を切れない。【給排水・衛生設備工事業】</li> <li>売上金額が下がったものの、仕入、人件費も減少しているため、資金繰りに大きな変化はない。【内装工事業】</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規事業に着手するにも、年齢と掛かる費用のバランスが難しいのと、後継者に出せる給料が確約できにくく思いきれない。【婦人服小売業】</li> <li>景気の停滞と通販、量販店、百貨等の流通の変化に対応出来ない。【紙・文房具小売業】</li> <li>物価高、相場高だったため、売上は上昇している。しかし、売価に反映できず利益の確保が難しい。仕入額の上昇が少しずつ資金繰りを難しくしている。【各種食料品小売業】</li> <li>酒類市場もコロナの影響も前期よりも更に薄れて各行事も戻りつつある。その関係で懇親会も戻りつつあり、売上の的には前年を上回りそうだ。お歳暮、忘年会を控えてその成り行きを期待し注視していきたい。【酒小売業】</li> <li>国が補助金によって、主燃料の販売価格を安定させる措置を延長してくれてはいるが、依然として高止まりの状況である。高価格である上に暖冬との予想もあることから、季節商品である灯油の売れ行きが期待できない。【ガソリンスタンド】</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕入額が増加し、利益の減少に悩んでいる。12月に売上が増えても、利益が薄いと仕事量だけがが増えて辛いことになる。また、店舗の老朽化については、この先何年働けるか不明なので、改装に手が出せない状況である。【すし店】</li> <li>今年の秋はコロナ禍からの完全な収束へ世の中の動きが変化し、お祝い事が復活したことを感じる。ただ、仕入れ単価の上昇と人件費の増加で利益率は好転していないような気がする。【普通洗濯業】</li> <li>コロナ前に戻りつつあるが、常にニーズの変化の対応は求められる。効率的な設備投資と資金繰りが必要であり、生き残るポイントとなる。【旅館、ホテル】</li> <li>通常の日常に戻りつつも仕入れ高騰が続いているため採算面が厳しい。忙しい時に限って人手不足になっている自分たちに対する負担がきつい。【食堂、レストラン(専門料理店を除く)】</li> <li>物価高騰に伴う顧客の利用頻度低下及び顧客数減少が発生している。新しい取組の構想はあるが従業員の確保が困難でありチャレンジできない。【美容業】</li> </ul>

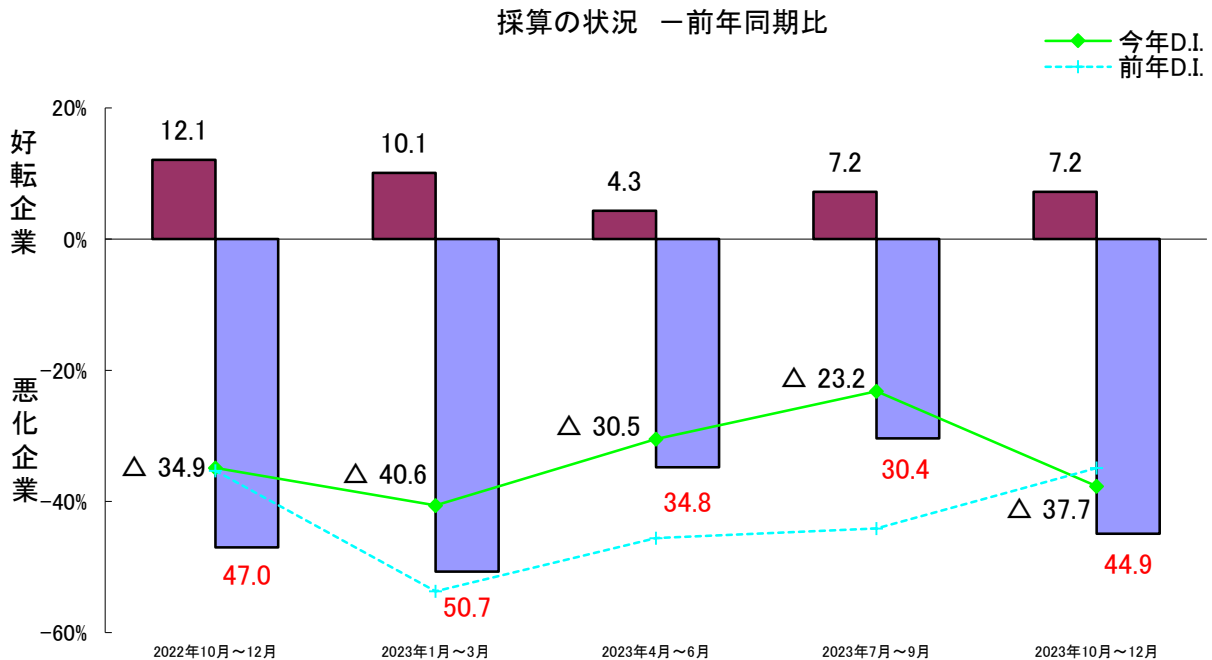
## ①【サービス業】売上の動向



今期、売上が「増加した」と答えた企業は27.5%と、前期の36.2%から8.7ポイント減少した。また、「減少した」と答えた企業は31.9%と、前期の26.1%から5.8ポイント増加した。したがって、今期D・I値は△4.4と、前期の10.1から14.5ポイント悪化した。

「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は26.1%、減少すると答えた企業は17.4%で、これにより来期のD・I値は8.7と今期の△4.4より13.1ポイントの改善を予測している。

## ②【サービス業】採算の動向



今期、採算が「好転した」と答えた企業は7.2%と、前期から不変であった。また、「悪化した」と答えた企業は44.9%と前期の30.4%から14.5ポイント増加した。したがって、今期のD・I値は△37.7と、前期の△23.2から14.5ポイント悪化した。

「来期の見通し」では、好転すると予測した企業は7.2%、悪化すると予測した企業は31.9%であった。これにより、来期D・I値は△24.7と今期の△37.7から13.0ポイントの改善を予測している。

### ③【サービス業】新規設備投資の状況

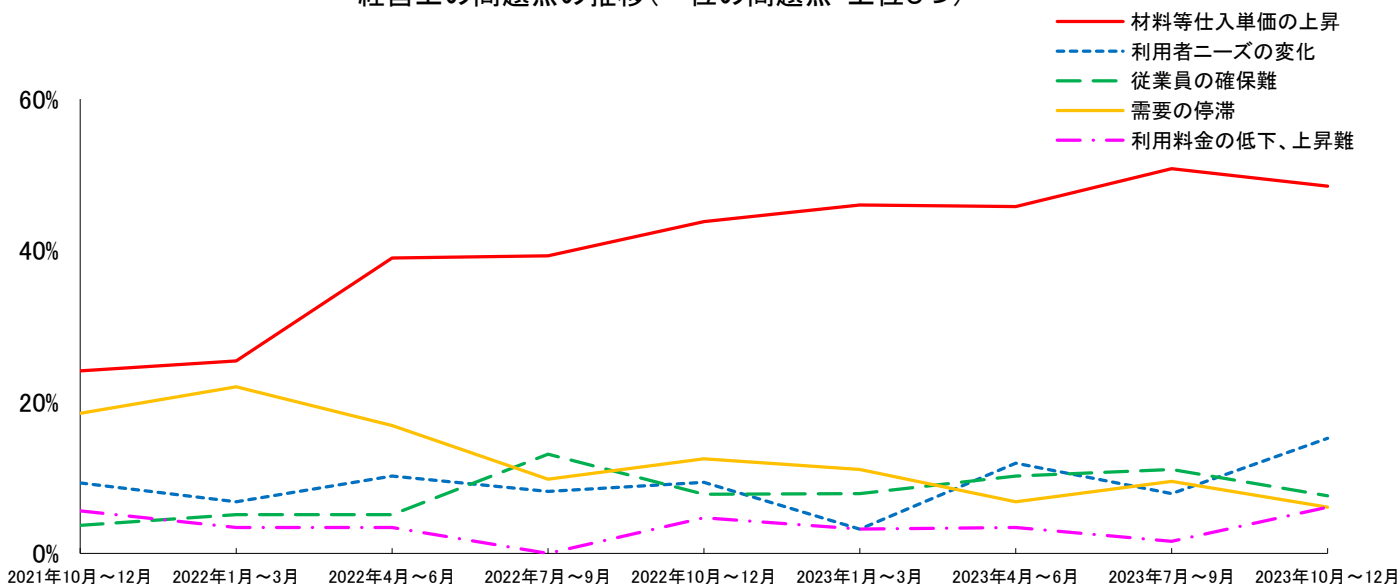
※投資内容は複数回答 (%)

項目 期	実施 して ・ 計 画 る	土	建	サ	車	付	O	福	そ	実施 して ・ 計 画 い ない
		地	物	ー ビ ス	両 ・ 運 搬 具	帯 施 設	A 機 器	利 厚 生 施 設	の 他	
今 期 (2023年10~12月)	13.0	11.1	33.3	22.2	22.2	11.1	0.0	0.0	11.1	87.0
来 期 (2024年1~3月)	14.5	10.0	10.0	30.0	10.0	30.0	40.0	0.0	10.0	85.5

今期、設備投資を行った企業は13.0%で、前期に設備投資を行った企業(21.7%)を下回った。来期は14.5%の企業が設備投資を計画している。

### ④【サービス業】経営上の問題点

経営上の問題点の推移(一位の問題点・上位5つ)



今期の経営上の問題点は、第1位が「材料等仕入単価の上昇」で48.5%、第2位は「利用者ニーズの変化」で15.2%、第3位は「従業員の確保難」で7.6%、第4位は「需要の停滞」、「利用料金の低下、上昇難」の2項目で6.1%であった。材料等仕入単価の上昇が続く中、利用者ニーズの変化に適應できるかが課題となっている。

### ⑤【サービス業】来期の見通し

売上(収入)額			採算			資金繰り			業況		
2023年 7~9月期	2024年 10~12月期	2024年 1~3月期	2023年 7~9月期	2024年 10~12月期	2024年 1~3月期	2023年 7~9月期	2024年 10~12月期	2024年 1~3月期	2023年 7~9月期	2024年 10~12月期	2024年 1~3月期
10.1	△4.4	8.7	△23.2	△37.7	△24.7	△7.4	△8.8	△8.8	0.0	△10.2	△8.7
傾向	↘	↗	傾向	↘	↗	傾向	↘	→	傾向	↘	↗

(注) ↗ 増加・好転、→ 不変、↘ 減少・悪化を示す。

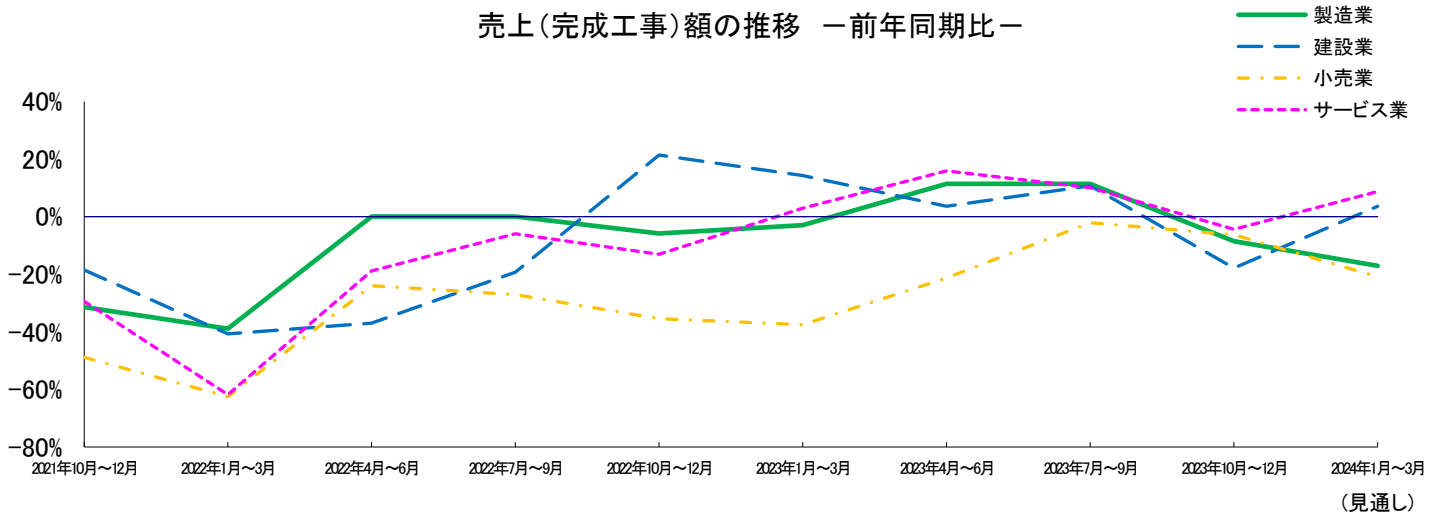
来期の見通しは、「売上(収入)額」、「採算」、「業況」の3項目で増加・好転を示しており、「資金繰り」は今期から不変である。また、減少・悪化を予測している項目は無かった。

調査対象企業のコメントでは、売上は増加しているが、材料の確保、材料費・人件費の上昇が心配であるという声が寄せられている。

### 【売上】

今期、「製造業」（19.9ポイントの悪化）、「建設業」（28.6ポイントの悪化）、「小売業」（4.2ポイントの悪化）、「サービス業」（14.5ポイントの悪化）の4業種すべてで悪化を示した。来期の見通しで改善を示したのは、「建設業」（21.5ポイントの改善）、「サービス業」（13.1ポイントの改善）の2業種で、悪化を示したのは、「製造業」（8.6ポイントの悪化）、「小売業」（14.5ポイントの悪化）、の2業種であった。

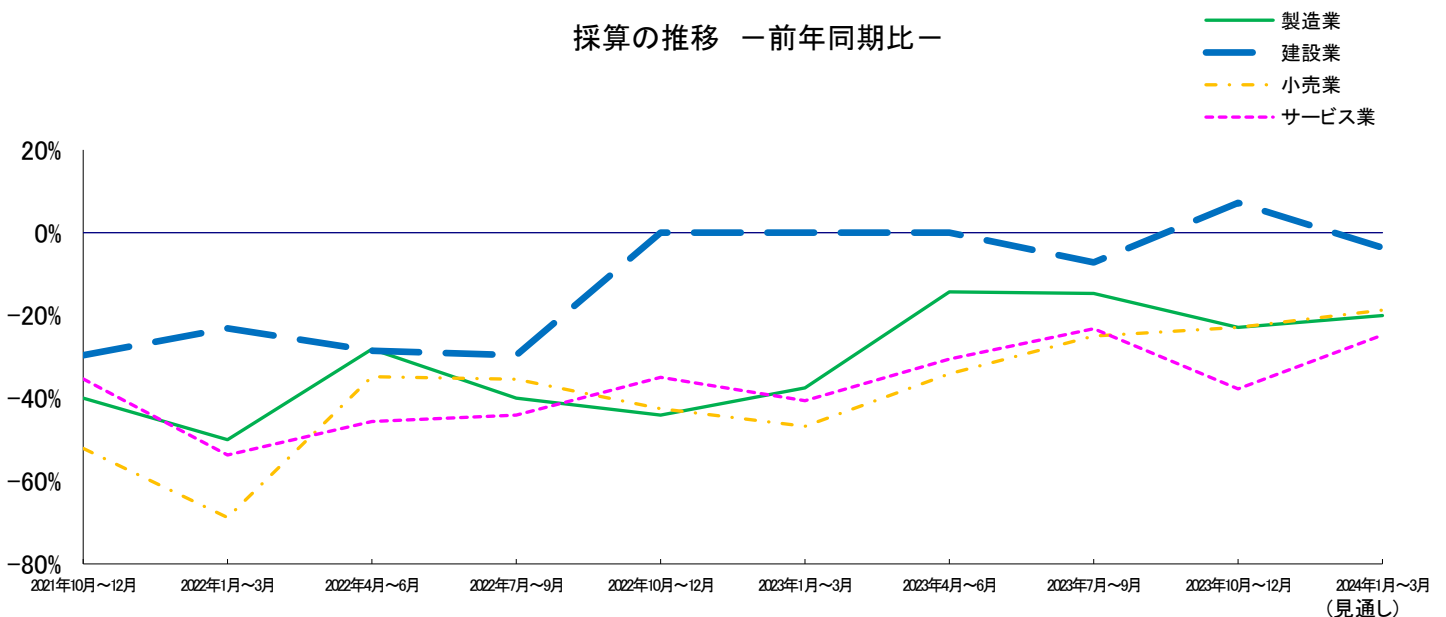
売上(完成工事)額の推移 ー前年同期比ー



### 【採算】

今期、改善を示したのは、「建設業」（14.4ポイントの改善）、「小売業」（2.1ポイントの改善）の2業種で、悪化を示したのは、「製造業」（8.2ポイントの悪化）、「サービス業」（14.5ポイントの悪化）、の2業種であった。来期の見通しで改善を示したのは、「製造業」（2.9ポイントの改善）、「小売業」（4.2ポイントの改善）、「サービス業」（13.0ポイントの改善）の3業種で、悪化を示したのは、「建設業」（10.8ポイントの悪化）であった。

採算の推移 ー前年同期比ー



〔注〕 本レポートの中で「D・I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。例えば各調査項目について増加(又は上昇、好転、長期化)と答えた企業の割合から、減少(又は低下、悪化、短期化)と答えた企業の割合を差し引いた値を示す表示です。マクロ指標等では表れにくい経営者マインドを敏感につかむ事ができます。